

「わたしは世の光である」井上隆晶牧師

エレミヤ 2 章 4～9 節、ヨハネによる福音書 8 章 12～20 節

①【光であるキリストの働き】

新約聖書の中でイエス様はさまざまな名前と呼ばれています。ある人がいくつの名前で呼ばれているかを調べたら 187 あることが分かりました。有名なものは「ことば、光、門、羊飼、羊、小羊、道、真理、命、復活、先生、医者、身代金、ぶどうの木、いのちのパン、弁護者、知恵、王、大祭司、親石、花婿…」などです。4 世紀の聖大バシレイオスは、このように書いています。

●「聖書は主キリストにただ一つの名をつけるのではなく、キリストの神性や偉大さが知られる名だけをつけるのでもない。…私たちに注がれるキリストの恵みの多様性に応じて、数知れぬ名がつけられている。あるときは牧者と呼ばれ、ある時は王と呼ばれる。また医者、花婿、道、門、泉、パン、斧、岩などとも呼ばれる。以上の名はキリストの本性を示すものではなく、キリストの働きの多様性、すなわち、ご自分が創造された人間への慈しみにより、願い求める人々の個々の必要性に応じてなされる救いの業を指し示している。」

キリストはあらゆる救いの業を行うので、それが彼の名前になっているのです。ここでイエス様はご自分のことを光といわれました。光の働きとは何でしょう。光はものを見えるようにし、暖め、生き物を育て、殺菌し、時間を教えてくれます。イエス様も同じです。

（1）「**神や自分を見えるようにします**」イエス様という光に照らされて、自分の生まれてきた意味、生き方がわかるようになります。それと同時に、自分の罪も見えるようになります。窓を開け外の光を部屋の中に入れると、部屋中の埃や汚れが良く見えるようになるでしょう。パウロもこの天の光に照らされて罪を知り、キリストが分かりました。

（2）「**暖めます**」イエス様の言葉によって私たちは神の愛を知り、心が暖かくなります。

（3）「**人間を育てます**」イエス様に照らされた者は死から復活し、生きるようになります。「**命は人間を照らす光であった**」（ヨハネ 1：4）とあるように、イエス様という光は命をもっているからです。この光によって私たちは生きます。

（4）「**殺菌します**」イエス様という光は、悪魔の嘘や蛇（サタン）の毒を解毒し、私たちを清めてくれます。2 世紀のイグナティウスは「**聖餐は死の解毒剤である**」といいました。

（5）「**時を教えてくれます**」イエス様の言葉は、私たちに今何をする時であるのか、またこの世がどこに向かっているのかを教えてくれます。

②【この世は暗闇であること】

「わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」(ヨハネ 8:12) と言われました。この世は暗闇だと主は言われます。主は、別のところで「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」(ヨハネ 1:4~5) とか、「暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。」(ヨハネ 12:35) と、はっきりこの世は暗闇だと書かれています。この世はキリストを理解できません。受け入れないのです。また暗闇はじっとしておらず、光の子を飲み込もうとして追いかけて来ます。人がキリストを信じようとしなければ、暗闇がその人を支配するのです。チェスタトン是这样いいました。「人は神を信じなければ何も信じないか」と言うそうではない。逆に何でも信じるようになる。」この世には、偽の光、偽のメシア、偽の教師がいます。まことの光を信じない者は、暗闇を信じ、暗闇をどんどん受け入れてゆくのです。だからその人はどんどん暗くなるのです。イエス様は弟子たちのことをよく嘆かれました。「まだ分らないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。」(マルコ 8:17~18) それは最初のアダムが、悪魔の嘘の言葉「それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」(創世記 3:4) を信じ、木の実を食べたからです。すると「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知った。」(同 3:7) とあって、「目が開くことが墮落の第一歩」でした。ただし、彼らはこの暗闇の世に対して目が開いたのであって、神に対して、また神の国に対しては見えなくなったのです。それ以来、人間は常にこの世(暗闇)を追いかけるようになり、神の国も神も求めなくなりました。だからこそキリストはこの世を照らす光として治療に来たのです。

③【キリストに従う者は見えるようになり、やがて光になる】

この世のものは、造られた太陽の光によって見る事が出来ますが、神のものは、神的な光に照らされるのでなければ見る事ができません。

●修道院の1時課(朝6時の祈り)という祈祷の中に「真の光であるキリスト、世に来るすべての人を照らし、きよめる者よ。願わくは、あなたの御顔の光をもってわれらを輝かせ、われらがこれによって近づくことのできない光を見ることが出来ますように。」と書かれています。

神の国に対して、また神に対して目が開くためには、キリストという神の光に照らされることがどうしても必要なのです。それは目には見えない造られざる光です。具体的にどうやって照らされるかというと、それは簡単です。皆さんが太陽の光に照らされたければ、太陽の下に出なければなりません。木の陰や、家の中にいたら光を受けることはできないのです。それと同じように、キリストに照らされたければ、キリストの前に立つことです。具体的には聖書を開くこと、祈ること、教会に来ること、聖餐を食べる事です。およそキリストと言われるすべ

てのものの所に行くのです。聖書を開く人は、天国の扉を開いて神の光を入れる人です。聖書を開かない人は、一年中窓を開けない人のように、心は埃と汚れで淀み、そこは迷いと病気の巣窟となるでしょう。多くの時間をキリストとの交わりに用いた人は、キリストに照らされる時間が多いので、不思議なのですが、神の国が見えるようになってくるのです。

先日、保育園で5歳児にこんなお話をしてきました。皆さんにもお話ししましょう。みんな目を点のようにして聞いてくれました。子供の心で聞いてください。

●神様がお創りになった世界は、最初とても美しく、病気も死も戦争もなく、みんな仲良く生きていました。悪魔はそれを面白く思いませんでした。悪魔はいつも嘘つきです。そこで悪魔は「悪魔の鏡」を作りました。それに写るものは何でも嘘に写るのです。悪魔はそれを人に見せて回りました。すると、神様はいじわるに見え、周りの人も嘘つきに見えました。それを見て、悪魔はお腹を抱えて大笑いしていると、手をすべらせて鏡を落としてしまいました。鏡は粉々になり、風が吹いて多くの人の目の中に、悪魔の鏡の破片が入りました。こうして多くの人は人を疑い、恐れ、信頼することをやめ、戦争がはじまりました。それをご覧になった神様は悩んで、ご自分の息子をこの世に送りました。「息子は私とそっくりだ。息子を見れば、神は良い方であり、人間も素晴らしいことがわかるだろう。」そうやってイエス様は神様を写す鏡としてこの世に来たのです。イエス様を見た人たちは、神様は、本当は優しく、人を愛していることを知りました。しかしそれを妬んだ悪魔は、身分の高い人たちに嘘を教え、イエス様を十字架につけて殺してしまったのです。こうして「神様の鏡」は粉々になったのですが、風が吹いて多くの人の目の中に、神様の鏡の破片が入りました。すると人々の目が開き、もっと多くの人が神様の愛が見えるようになったのです。

キリストがおられるところは光となりますが、おられないところは暗闇となります。キリストが私たちの心にいつも居るなら私たちは光となるでしょう。いつもキリストの言葉を心に入れ、聖餐を食べて照らしてもらいましょう。キリスト教徒を迫害していたパウロも目が開き、こういいました。「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失と見ています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。」(フィリピ3:8) キリストの光に照らされた人は、この世は塵あくたであって、神の国はもっとすばらしいことが見えるのです。皆さんもキリストに照らされて見えるようになりましょう。